

新産地報告 (4)

上野勝典* 上野由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (4)

Katsunori UENO and Yukie UENO

長野県産の種子植物について、新たに発見されたもの、または分布上興味深いものについて、先の報告(上野・上野2006)に引き続いて報告する。

ヤマブキソウ (ケシ科)

Chelidonium japonicum 写真1

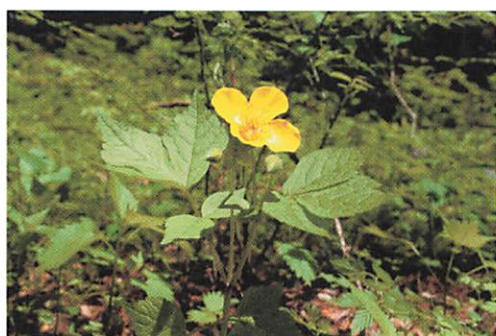


写真1 ヤマブキソウ 2006年5月14日 塩尻市

2006年5月14日 塩尻市下西条 870m

溪流脇の比較的日常のよい場所に、ヤマブキソウが一株だけで咲いていた。県内では東部を中心に分布しており、近くでは諏訪市からの報告がある (CD-ROM 長野県植物誌資料集)。ヤマブキソウは通常群落を作って生育しているので不自然な状況ではあったが、すぐ近くにはセツブンソウやフクジュソウの群落があり自然環境のよく残った場所であり、また居住地は近くに無いことから栽培品の逸出ではないと考えられる。数年前の大雨で溪流が氾濫した際に上流の自生地から流されてきた可能性が考えられたため、上流域を探してみたが群落を見つけることはできなかった。長野県絶滅危惧ⅠB類。

エゾイチヤクソウ (イチヤクソウ科)

Pyrola minor 写真2



写真2 エゾイチヤクソウ 2006年8月3日 伊那市

2006年8月3日 伊那市赤石山脈 2300m
NAC143155

比較的日常のよい場所に、コバノイチヤクソウとは異なるイチヤクソウ類が咲いているのに気がついた。コバノイチヤクソウと比較すると、葉がやや楕円形で、花序は花がよりまとまっており、また花柱が屈曲しない。北海道大学の高橋英樹氏に標本と写真で同定していただいたところ、エゾイチヤクソウであった。長野県ではエゾイチヤクソウは赤石山脈の三伏峠からのみ報告されている (清水編 1997) が、1947年以降に見つかっておらず長野県版レッドデータブックのカテゴリー区分では「情報不足」となっていた。今回の

* 上野勝典 〒399-0011 松本市寿北2-2-38

場所は赤石山脈の山城だが、三伏峠からかなり離れた伊那市内にあり、新産地である。

エゾイチヤクソウは標高2300m付近から2800m付近まで、3箇所を確認できた。それぞれ1m四方に20株程度が数本の花序を出して小群落を形成していた。近縁の種にカラフトイチヤクソウがあり、佐竹他(1981)、高橋(1991)、および現地での観察をもとに

両種の違いを表1のように比較した。カラフトイチヤクソウの方が花柱は長めで、花がやや大きい。花柱はエゾイチヤクソウでは花弁からほとんど飛び出ないようだが、観察した範囲では、開花直後は確かに短いものの、花が終りに近づくとやや伸びてきて花弁から飛び出すようになっていた。

表1 カラフトイチヤクソウとエゾイチヤクソウの比較
佐竹他(1981)、高橋(1991)を参照して作成

	カラフトイチヤクソウ	エゾイチヤクソウ
花柱	2.5~4 mm	約1 mm
萼	2 mm 以上	2 mm 以下
花弁	径8~9 mm	径5~6 mm
葉	厚く光沢がある	光沢は少なく草質
	長さ2.5~4 cm, 幅2~3 cm	長さ1.8~3 cm, 幅1.5~2.8 cm
自生環境	ガンコウランがマット状に密生するような日当たりの良い高山	亜高山のダケカンバ林の縁や林道わきの飯下

高橋(1991)によれば、エゾイチヤクソウは北半球の冷温帯から亜寒帯に広く分布する周北極要素で、国内における分布は東北地方に欠落し、北海道と本州中部に隔離的に分布する特徴をもっており、国内では利尻島、夕張岳、新潟県雪倉岳、赤石山脈、福島県吾妻山からのみ報告されている。国の絶滅危惧ⅠA類。

ツメレンゲ(ベンケイソウ科) *Orostachys japonicus*
2006年8月12日 松本市稲核(旧安曇村) 810m

比較的日当たりのよい、乾いた岩場や石垣に点々とツメレンゲが付着し、蕾をつけているのを見つけた。旧松本市内では数箇所観察され、標高の低い市街から、美ヶ原の上部まで広い標高の範囲に分布している。10月に再来したときにはすでに花は終わっていた。「安曇村誌」(1998)に記載がなく、またCD-ROM長野県植物誌資料集にも安曇村での記録が無かったことから新産地として報告する。長野県準絶滅危惧とともに、国の準絶滅危惧。

エゾタツナミソウ(シソ科)

Scutellaria pekinensis var. *ussuriensis*

2006年7月30日 原村立場川 1700m

立場川沿いの林道で、花付きの少ないタツナミソウが点々と咲いているのを見つけた。エゾタツナミソウはヤマタツナミソウの変種で、花は直立せずに斜上して付き、ヤマタツナミソウと比べると、茎や葉の毛がまばらで、葉の先端の尖りは少なく、また鋸歯が大き

めである。富士見町での記録もあるようで、今回の場所は富士見町との境界に近く、双方に連続的に分布しているものと思う。長野県絶滅危惧ⅠB類。

ホソバノツルリンドウ(リンドウ科)

Pterygocalyx volubilis

2006年9月10日 塩尻市大芝山 950m NAC143180

溪流脇の急で比較の日当たりの良い斜面のガレ場上に、ホソバノツルリンドウがあちこちで生育しているのを見つけた。つぼみを多数つけていたが、開花はあと2週間ほどかかるようであった。ガレ場の上部は過去に石灰岩を掘っていた場所と思われ、人工的に掘削したような跡が残っていた。長野県準絶滅危惧とともに国の絶滅危惧ⅠB類。

ツチアケビ(ラン科) *Cyrtosia septentrionalis*

2006年10月14日 上松町荻原 780m

杉林の比較の日当たりの悪い斜面に、ツチアケビが真っ赤で巨大な実をつけていた。ツチアケビは独特の赤い実をつけるため、この時期に見つけやすい。同日、隣接する大桑村でも観察した。全県にあるが、県南部を中心に分布している。長野県絶滅危惧Ⅱ類。

ベニシュスラン(ラン科)

Goodyera macrantha 写真3

2006年11月26日 天龍村神原

溪流脇の苔むした岩に数株のベニシュスランが実を

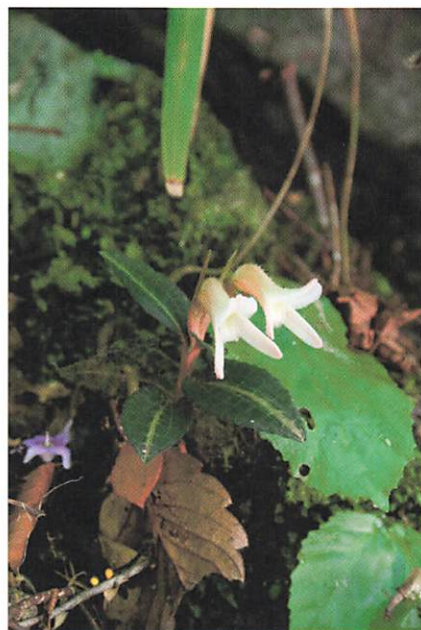


写真3 ベニシュスラン 2007年7月28日 天龍村

つけていた。『信州の珍しい植物』(奥原著1992)に木曾谷でのベニシュスランの記載があるが、長野県植物誌によれば旧山口村での記録であるため、現状では県内での記録は天龍村のみとなっており貴重な種である。新産地では無いが近年の確認例として報告する。2007年7月に再来し花を確認した。長野県絶滅危惧ⅠA類。

トウノウネコノメ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium pseudopilosum Wakab. et Hir.Takah.

2007年4月1日 天竜村満島 NAC143999

溪流脇のやや崩れかけた岩場の一角に、見慣れないネコノメソウが小さな群落を作って生育していた。岐阜大学の高橋弘氏に写真で同定していただいたところ、トウノウネコノメであった。トウノウネコノメは1999年に新種として発表され、萼片が黄色く、雄ずい、花柱が萼裂片から飛び出す特徴がある(若林・高橋1999)。キバナハナネコノメに葉が良く似ているが、萼裂片の先は丸くならず釣鐘状で、大きく開くことはない。愛知県や岐阜県の一部に分布し、今まで長野県での報告はなかった。長野県新産。

キバナハナネコノメ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium album var. *flavum* 写真4

2007年4月15日 阿南町南条 NAC144005



写真4 キバナハナネコノメ 2007年4月15日 阿南町

2007年4月29日 平谷村茶谷 NAC144003

どちらの自生地においても、溪流沿いの苔むした岩上に群生して生育していた。自生地のほとんどは増水すると水に浸ってしまいそうな場所であった。キバナハナネコノメはハナネコノメの萼片が黄色いものであり、萼裂片は他のネコノメソウと比べると大きく開く。これまで天竜村と根羽村での記録があり、東海地方に限って分布する希少な種である。阿南町では、溪流にそって点々と広い範囲に渡って生育しており、周囲の環境も安定しているが、平谷村の自生地では、溪流脇の杉林が土砂崩れで倒木となって溪流をふさぎ、あちこちで岩が崩れた状態となっている。平谷村の方ではキバナハナネコノメの個体数はわずかで、絶滅が心配される。長野県絶滅危惧ⅠA類であるとともに、国の準絶滅危惧。

ジロボウエンゴサク (ケシ科) *Corydalis decumbens*

2007年5月2日 飯島町与田切川 NAC144078

飯島町の標高1000mを越える林道沿いに、ジロボウエンゴサクが20m以上に渡って群落を形成していた。ジロボウエンゴサクは花が赤紫色で、小型の花を2から3個程度しかつけない。玉状の根茎から花茎を複数伸ばし、ヤマエンゴサクのように根出葉は鱗片様に退化することはない。まわりはスギ林、カラマツ林、落葉広葉樹林の交わったようなところで、道路脇から林内部に入ると、ほとんど見ることはできなかった。

た。以前から有ったものか、それとも外部から持ち込まれたものかは不明である。長野県内では、1932年に天龍村で記録された後は、2005年に松本市で見つかるまで報告が無く絶滅種とされていた（大塚他 2006）。

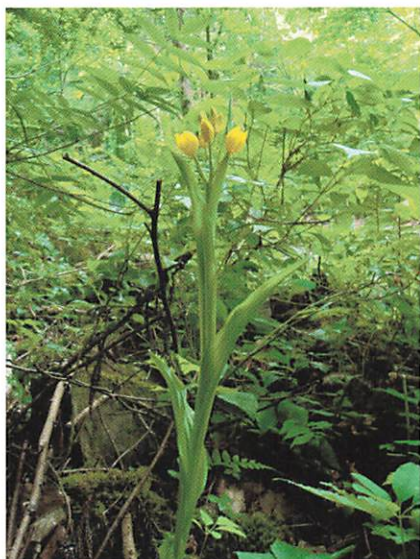


写真5 キンラン 2007年6月3日 大桑村

キンラン（ラン科） *Cephalanthera falcata* 写真5
2007年6月3日 大桑村 600m

林道わきの比較的日当たりのよいところに一株だけが咲いているのを見つけた。県内各地に分布するが、木曽谷での報告は少ないようである。長野県絶滅危惧ⅠB類に分類されとともに（長野県2002）、環境庁絶滅危惧Ⅱ類に分類される（矢原監修2003）。

前報の訂正

前報の上野・上野（2006）において、ムラサキニガナ、ミヤマツチトリモチ、アケボノシュスランの撮影日が2004年となっているが、2005年の間違いなので、ここに訂正する。

謝 辞

本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきまし

た長野県環境保全研究所&ハーバリウム（NAC）の大塚孝一氏には、心より感謝いたします。

エゾイチヤクソウの同定についてご協力いただきました金沢大学の植田邦彦氏、ならびに同定をしていただきました北海道大学の高橋英樹氏、また、トウノウネコノメの同定をしていただきました岐阜大学の高橋弘氏にこの場で感謝の意を表します。

引用文献

- 安曇村誌編纂委員会（1998）安曇村誌第1巻自然。
上野勝典・上野由貴枝（2004）新産地報告．長野県植物研究会誌，37：49-50。
上野勝典・上野由貴枝（2005）新産地報告(2)．長野県植物研究会誌，38：137-138。
上野勝典・上野由貴枝（2006）新産地報告(3)．長野県植物研究会誌，39：123-127。
大塚孝一・小山泰弘・上野勝典・上野由貴枝（2006）長野県絶滅種ジロボウエンゴサクの松本市での自生確認．長野県環境保全研究所報告，2：119-121。
奥原弘人（1992）信州の珍しい植物．信濃毎日新聞社。
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・巨理俊次・富成忠夫編（1981）日本の野生植物 草本Ⅲ合弁花類，平凡社。
塩尻市誌編纂委員会（1991）塩尻市誌．第一巻 自然。
清水建美監修（1997）長野県植物誌．信濃毎日新聞社。
高橋英樹（1991）日本産イチヤクソウ類の分布と東北地方中南部欠落分布．植物分類・地理，42(1)：23-43。
長野県（2002）長野県版レッドデータブック．維管束植物編。
長野県植物誌資料集作成委員会（2005）CD-ROM 長野県植物誌資料集（普及版）。
矢原徹一監修（2003）絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ．山と溪谷社。
若林三千男・高橋 弘（1999）本州中部産ネコノメソウ属の一新種および一新変種．植物分類地理学会誌，50(1)：1-11。